

薬剤師生涯研修の指標項目（自己診断用）

《日本薬剤師研修センター》

本指標項目は、全職域にわたる薬剤師を対象とし、受講者が自ら研修すべき内容を選択調整したり、あるいは研修した内容を整理確認するときの目安として用いる。
 原則として受講による学習とするが *印は一部実習あるいはロールプレイを必要とする。
 (A)には各項目に1～10点を記入(通常必要度5点) 総計75以上100以下とする。(B)には0～5点を記入(通常の知識経験2点) 総計50以下とする。(A-B)の値により相対的に重点を置くべき研修内容を自己判断する。

【項目】	【研修内容の例】	業務上必要度 (A)	現状充足度 (B)	自己学習計画 (A - B)
1. 調剤	薬剤知識、調剤鑑査、疑義照会、処方鑑査 服薬モニタリングと評価 調剤過誤（薬剤関連事故）			
2. 製剤	薬局製剤、院内製剤 注射薬等調製・交付業務、滅菌法、無菌操作法* 中心静脈栄養液*、経腸栄養、体液・電解質管理			
3. 処方解析	処方解析全般、症例検討、代表的疾患と薬物療法 薬物-妊婦（授乳婦）、薬物-老人、薬物-小児（新生児） 薬物-肥満、TDM（応用）*			
4. 副作用	発症機序、症状、対処法 過量投与・薬物中毒、PEM			
5. 相互作用	相互作用（ADME）、配合変化 薬物-薬物、薬物-病態、薬物-食物、薬物-嗜好品			
6. 医療一般	倫理、医療過誤、セルフメディケーション（OTC薬を含む） 機能（加齢、老化等）、リスク要因 症候（意識障害、失神、ショック、けいれん等） 検査、初期救急、治療、QOL、疾患、疫学			
7. DI・情報	DI全般、情報源（添付文書・患者・医療従事者） 新薬情報、コンピュータ管理、医療用語・表現 薬剤疫学、統計学、適正使用・DUE、薬害			
8. 薬剤管理指導業務*	服薬指導（患者教育）、薬歴管理 医師等医療従事者への情報提供、チーム医療 副作用モニタリング、POS全般 医療経済学（クリニカル・パス）・EBM			
9. コミュニケーション技術*	接遇、カウンセリング コミュニケーション（患者・医療従事者）			
10. 医薬品管理	品質管理（注射薬管理）、製剤管理 治験薬管理、麻薬・向精神薬管理、血液製剤管理 毒劇薬管理、毒劇物管理、放射性医薬品管理			
11. 医薬品試験	医薬品試験全般、規格試験、製剤試験、日本薬局方 バリデーション（分析）、体内薬物濃度測定法*			
12. 在宅医療	地域医療、在宅患者訪問薬剤管理指導業務 介護用品・福祉機器			
13. 医療保険・介護保険制度	診療報酬、調剤報酬、薬価基準、請求事務、医療費 療養担当規則（薬担、療担）、介護保険			
14. 業務関連の法規	法規全般（守秘義務等）、薬事法、薬剤師法、医療法 麻向法、臨床治験（GCP）、PL法、毒物劇物取締法			
15. 薬事行政・医療行政	全般、医薬分業、適正使用、医療・医事監視 承認審査、市販後調査			
16. プライマリケア	健康管理全般、疾病予防、食生活指導、疾患の治療食 地域保健サービス、学校保健教育 幼児・乳児ケア、特定機能性食品			
17. 漢方薬・生薬	全般、漢方製剤の適用、薬効評価、副作用 東洋医学（漢方方剤）、伝統医学、生薬、民間薬			
18. 環境衛生	環境衛生管理（水、空気、光、音等）、院内感染対策 食品衛生、害虫・病原菌、産業衛生 有害物・危険物対策、廃棄物対策			
19. 基礎薬学	生化学、薬理学、薬物動態学、生物学、解剖学 病理学、微生物学、衛生化学 薬剤学・製剤学、有機化学、分析学、薬史学			
20. 医薬品開発	工場見学、品質規格 前臨床試験、臨床試験、市販後調査 GLP、GMP、GCP			